

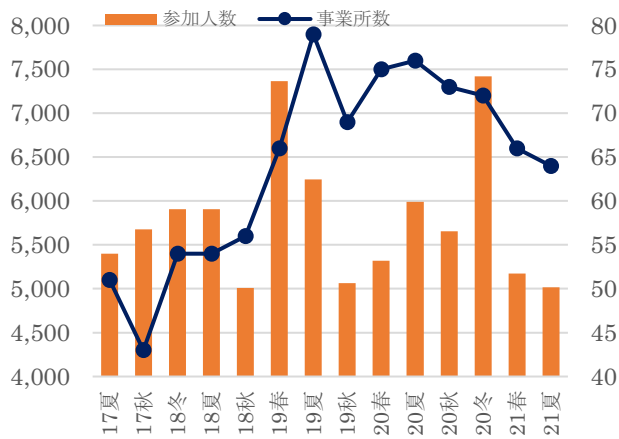
2021年 夏の環境一斉行動週間

2021年7月14日(水)～20日(火)の7日間

集約の結果

1◆◆ 取組の集約 ◆◆◆

事業所数	64	事業所
取組人数	5,016	人
A 公共交通	17,320	回
B 地元の旬	7,619	回
C プラ分別	13,865	回



2◆◆ 参加事業所 ◆◆◆

50音順

- 有限会社愛光電子
- 株式会社アイテック
- 株式会社アイパックス★
- アザーレミックス株式会社
- 旭松食品株式会社★
- 阿南町役場
- 飯田環境センター竜水園
- 飯田市スポーツ協会
- 飯田建設株式会社
- 飯田市★
- 飯田信用金庫★
- 有限会社飯田スクリーン工業
- 飯田精密株式会社
- 株式会社五十川商店
- 稲葉クリーンセンター
- イワタニ長野株式会社
- エコトピア飯田株式会社★
- おひさま進歩エネルギー株式会社★
- 勝間田建設株式会社
- 鼎みつば保育園

- 上郷西保育園
- 上久堅保育園
- 上村保育園
- 有限会社北原土木
- 協和設備有限会社
- 神稲建設株式会社★
- 木下建設株式会社★
- クロダ精機株式会社
- こども発達センターひまわり
- シチズン時計マニファクチャリング株式会社飯田工場★
- 信州航空電子株式会社
- ダイワ設備株式会社
- 高森町役場
- 龍江保育園
- 株式会社タニガワ
- 多摩川テクノクリエーション株式会社
- 多摩川パーツマニファクチャリング株式会社
- 多摩川ロジステックス株式会社
- 多摩川精機エレクトロニクス株式会社
- 多摩川精機株式会社★
- 中部電力パワーグリッド株式会社★
- TDK庄内株式会社飯田工場★
- 殿岡保育園
- 株式会社中村
- 中村保育園
- 夏目光学株式会社★
- 株式会社NEXAS
- 根羽村役場
- 有限会社野中製作所
- 原建設株式会社
- 有限会社PAPアライ
- 松尾東保育園
- 丸山保育園
- 株式会社丸宝計器
- 三菱電機株式会社中津川製作所★
- 株式会社ミナミ
- 三穂保育園
- 南信州広域連合事務局総務課
- 有限会社森脇精機
- 山京インテック株式会社
- 山本保育園
- 吉川建設株式会社★
- 龍共印刷株式会社
- 株式会社龍光電気工業

★は「地域ぐるみ環境ISO研究会」参加事業所

15 / 24

(参考) 南信州いいむす 21 登録事業所の参加状況

南信州宣言	4	事業所
南信州いいむす	42	事業所
計	46	事業所

※研究会参加事業所で南信州いいむす 21 に登録の事業所もあります。

3◆ 取組内容(要請内容) ◆◆

取組み内容は、次のA・B・Cの行動でした。

A 公共交通機関を使おう！

バス、電車、乗合タクシーなど公共交通機関を利用することでマイカーに比べ、1kmあたりのCO₂排出量はバスで1/2、電車は1/7に抑えられます。感染症対策の影響で利用が減る傾向にある公共交通機関や地域経済にも良い効果があります。通勤やお出かけの際、積極的に公共交通機関を利用しましょう！

B 地元の旬を食べよう！

買い物の際、地元のお店で地元の食材を買うと、輸送にかかるエネルギーが少なくすみ環境にもやさしく、この時期ならではの食材はおいしく、健康に良い効果もあります。特に、地元の果樹産業は観光客の減少により厳しい状況が続いています。地元のくだものを積極的に購入し“地元の特産”を再発見しましょう！

C プラごみは洗って分別しよう！

外食の自粛が続く中、おうちで楽しめる“テイクアウト”が増え、それと共にプラスチックごみが増える傾向にあります。家庭から出たプラごみは洗って資源に分別しましょう！これからの季節、バーベキューやハイキング、スポーツなど屋外で飲食する機会が増えますが、屋外で出たごみは家に持ち帰り正しく分別しましょう！

4◆ 取組内容(報告内容) ◆◆

一斉行動の取組みを実践するにあたって、「各自で工夫したこと」として報告のあったもの。おおまかに区分してあります。

(順不同・表現の違うものはなるべく紹介)

A 公共交通機関を使おう！

- 公共交通機関は使用する機会がなかったが、休日は自動車を使用せず自転車移動をした。
- 通勤や出掛ける際に公共交通機関を利用するのは難しい環境な為、徒歩通勤やまとめ買いでの買い物回数を減らしてマイカー使用を少なくした。
- 公共交通機関は使わないが、自転車は家の近所で使用している。
- 休日に子どもと電車に乗った。普段乗らないの

で新鮮味があって楽しかった。

- 公共交通機関を利用する様に意識した。
- 電車を利用して帰宅した。
- 通勤公共交通機関を使うことはできなかったが、環境によいことを考えた行動をした。
- 車通勤をしているが、電車を使用するよう意識した。
- 普段公共交通機関を使用する機会が少ないからこそ、一斉行動週間で意識して公共交通機関を使用した。
- 公共交通機関について、効果的に利用できるよう今後考えていきたい。
- 公共交通機関の利用に努めた。

B 地元の旬を食べよう！

- 自宅で作っている野菜を中心に食事をした。
- スーパーの地元生産者コーナーで選んだ。
- 保育園で育てている野菜や果物、地元の方からいただいた野菜や果物を給食の時に紹介しながら食べた。
- コロナの影響を受けている地元業者の食材を利用することを心掛けた。
- 産直の店で新鮮な品を安く購入する。
- 健康のためにも地元の野菜を食卓にあげ、購入の際も生産者コーナーの有効利用。
- 地元産のものが無い場合は、一番近い産地のものを選んでいく。
- スーパーに行ったらまずは地元生産者コーナーを見る。
- 近所の方からいただいた野菜を食べた。
- 近くにスーパーもあるが、できる限り直売所を利用するようにしている。エコというより、おいしさを目的にしている。
- 地元のスーパーや直売所で旬の野菜や果物を購入し、夏料理を作っている。
- 知人が果樹園を営んでいるので、子どもと一緒にサクランボ狩りをした。
- 地元の食材だけでなく、花を購入している。
- コロナ禍で運動不足なので、家庭菜園で体を動かし、食べている。
- 毎日ズッキーニを食べた。
- おすそわけをいただく。

C プラごみは洗って分別しよう！

- 家族でごみの分別に取り組んだ。
- 会社で行っているペットボトルキャップの回収に協力している。
- プラごみの分別は当たり前になっている。
- 分別方法を改めて確認した。
- 牛乳パック、食品トレイはお店の回収BOXへ返却する。

- ・保育園でペットボトルや空き箱、トイレトーパーの芯などを集めているので、ある程度溜まった時点で保育園へ持って行くことで、ゴミの量を減らしている。
- ・コンビニ利用の際、スプーン、箸等は断っている。
- ・汚れたプラごみは燃えるゴミに捨てがちでしたが、洗って分別をするよう心がけるようになった。
- ・以前は燃えるゴミとして出していた、ヨーグルトの蓋を洗って分別するようにした。
- ・マイボトルの利用によるペットボトルの購入削減。
- ・地域の資源ごみリサイクル活動へ参加している。
- ・自分が意識したことでプラごみ削減に向けた取り組みが家庭内に浸透した。
- ・飯田市では、プラごみも、燃えるごみとして捨てることができるようになったため、洗って分別することが減っていましたが、また洗ってプラごみに分別してみようと思った。

♥ その他の取組

- ・クールビズに取り組んでいる。
- ・買い物はできる限り仕事帰りに行く。
- ・家族とできる限り同じ部屋で過ごし、消費電力を抑えるようにしている。
- ・缶や段ボールはリサイクルステーションを利用している。
- ・乗り合わせて移動する。
- ・食品の廃棄しないよう賞味期限切れを作らないよう心掛けている。
- ・冷房は、夕方涼しくなったら使わない。
- ・再エネ100%電力契約に変更。
- ・近くの無人販売を頻繁に利用している。
- ・雨水タンクを利用している。
- ・極力食べ切り、食品ロスを防ぐ。
- ・エアコン温度設定28℃+サーキュレータ併用。
- ・遮光・断熱カーテンを使用し、室内温度上昇抑制によるエアコンの効率改善を図る。
- ・エアコンのフィルターを清掃した。
- ・自宅へすだれ・サンシールドの設置した。
- ・家の近くの買い物は徒歩で行く。
- ・付箋を再利用している。
- ・生ごみはコンポストに入れ堆肥として再利用。
- ・節水用のシャワーヘッドに変えた。
- ・急発進、急加速を避け、エコドライブに取り組む。
- ・朝方や夕方は窓を開け自然風を家に入れる。
- ・エコバックを常に持ち歩く。

★ ご意見

- ・プラごみのカウントが難しかった。
- ・コロナ禍で公共交通機関を利用するのはどうなのか。
- ・公共交通の利用は、バスのルートや本数が限られており現実的ではない。
- ・今回の取組をとおして、より意識して取り組むようになった。
- ・プラスチックの包装が過剰に感じるものもある。
- ・何回といわれると回答に困る。意識を持って生活はしている。
- ・個々の小さな取り組みの積み重ねが大きな効果になると思う。
- ・公共交通機関の利用のみに限ったの取り組みは参加が困難な取り組みであったように感じる。この時期感染対策や地域性も考慮すべきだと感じる。
- ・コロナの影響で、公共交通機関を使うことを敬遠してしまう傾向がある。エコ以上に深刻な問題だ。
- ・報告するのであれば、取り組む項目を多くして、また難易度の高いものを導入すべきではないか。
- ・地元の旬食材やプラごみ分別への取り組みは大切だと思います。取り組みには賛成ですが、個数のカウントは大変です。実施したか否かの報告にしていきたい。
- ・一斉行動週間は、環境の見直しをするのによい機会だと思う。
- ・Cの取組は、汚れのひどいものについては洗えば流すと下水処理に負荷がかかるので、かえってエコではなくなる。
- ・徒歩で通勤しています。公共交通機関を使うより環境に配慮できていると思いますので、カウントできるようにしていきたい。
- ・食べ残しを出さない取組を実施した方が良い。
- ・テイクアウトを利用すると容器が大きかったり、堅かったりする点が気になる。